

# 地域における MCS普及拡大を目的とした説明会

2026年2月28日（土）15:00  
延岡市医師会さま説明会用資料

※資料の有効期限：2026年3月28日（土）  
期限を過ぎましたら破棄いただきますようお願いいたします。





# 目次

1. MCSとは
2. デモアカウントでの説明
3. MCSでできること
4. MCSの使い方
5. MCSを活用した事例
6. 運営会社概要
7. サポート窓口
8. 質疑応答

# 1. メディカルケアステーション(MCS)とは

メディカルケアステーション（MCS）は、全国の在宅医療の現場でご利用いただいている地域包括ケア・多職種連携のためのコミュニケーションツールです。

## MedicalCare STATION





## 1. MCSとは

操作がとても簡単！  
直感的に操作できるツールです。



# 1. MCSとは

「MCS」と検索し、  
ホームページをクリック



MCSホームページ：  
<https://about.medical-care.net/html/>

QRコード



# 1. MCSとは

**MedicalCare STATION**

無料新規登録 ログイン

ホーム サービス紹介 プラン・料金 導入事例 **利用サポート** よくあるご質問 製薬・医療機器・  
医材料企業の方向け

まずは始める

**MCSはじめてガイド**  
基本操作を動画を見ながら学べるガイド

初めてのMCSガイダンスセミナー  
スタッフによる初めての方向けオンラインセミナー

使い方を知る・伝える

**使い方ガイド**  
基本操作のPDFマニュアル・パンフレット

の現場でご利用いただいている地域包括ケア・多職種連携の  
ためのコミュニケーションツールです。

全国 医師会 多数採用 | 医療・介護 ユーザー **34**万人以上

基本機能 無料 新規登録して始める

MCSはじめてガイド



## 1. MCSとは

文章だけでなく、  
写真、ファイル、動画など  
様々なデータを共有できます。





## 1. MCSとは

「誰も置き去りにしない」

医療介護従事者の方は  
基本機能を無料でご利用いただけます。



# 1. MCSとは（無料の理由）



アプリ開発



セミナー



アンケート



広告

---



MedicalCare STATION  
ビジネスプラン | 1ユーザー/月  
¥300

# 1. MCSとは (プラン・料金/一部の比較紹介)

<p><b>：プラン比較</b></p> <p>ビジネスプランでは基本機能に加え、業務効率化に役立つ機能をご利用いただけます。90日間無料でお試しいただけます。</p> <p><b>基本機能</b></p>	<p><b>フリー</b></p> <p>まずは試しに導入してみたい チーム向け</p>  <p><b>0円</b> (無料)</p> <p><b>新規登録</b></p> <p><b>施設登録日から90日間は無料で ビジネスプランの機能をお試しできます</b> ※一部制限あり 施設登録日とは <a href="#">?</a></p>	<p><b>ビジネス</b></p> <p>より業務効率や連携を促進したい チーム向け</p>  <p><b>300円</b> 1ユーザーあたりの月額(月間契約)</p> <p><b>新規登録</b></p> <p><a href="#">すでにご登録済みの方(ログイン)</a> ご登録施設単位でのご契約となります <a href="#">料金計算例</a></p>
<p>ユーザー登録数 <a href="#">?</a></p>	<p>制限なし</p>	<p>制限なし</p>
<p>患者・利用者登録数 <a href="#">?</a></p>	<p>100件まで</p>	<p>制限なし</p>
<p>グループ登録数 <a href="#">?</a></p>	<p>30件まで</p>	<p>制限なし</p>
<p><b>メッセージ</b></p>		
<p>投稿メッセージ数 <a href="#">?</a></p>	<p>制限なし</p>	<p>制限なし</p>
<p>投稿メッセージへのアクセス <a href="#">?</a></p>	<p>制限なし</p>	<p>制限なし</p>

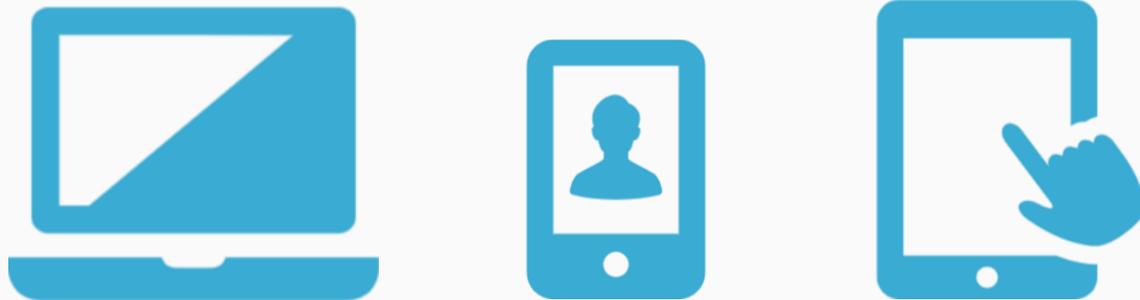
# 1. MCSとは (プラン・料金/一部の比較紹介 続き)

ビデオ通話/音声通話	フリー	ビジネス
通話を開始する <a href="#">?</a>	- ※2	✓
通話に参加する <a href="#">?</a>	✓	✓
通話時間 <a href="#">?</a>	最大24時間 ※2	最大24時間 ※2
最大参加人数 <a href="#">?</a>	12人まで ※2	12人まで
画面共有 <a href="#">?</a>	✓	✓
<b>管理</b>		
MCS IDの作成数 <a href="#">?</a>	3アカウントまで	300アカウントまで
MCS IDの管理 <a href="#">?</a>	✓	✓
<b>セキュリティ</b>		
アプリ認証 <a href="#">?</a>	✓	✓
アプリ認証管理 <a href="#">?</a>	利用不可	✓
個人のログイン履歴 <a href="#">?</a>	直近90日間	直近90日間
スタッフのログイン履歴 <a href="#">?</a>	直近24時間	直近5年間
<b>サポート</b>		
電話サポート	利用不可	✓
メールサポート	✓	✓



## 1. MCSとは

新規登録が完了すれば  
パソコン、スマホ、タブレットなど  
様々な端末で使えます。  
(ガラケーは使えません)





## 1. MCSとは

多くの医師会や行政の方にも  
ご利用いただいています。

登録ユーザー数35万人以上（2026年1月時点）





# 1. MCSとは

採用実績について  
(MCSホームページにて紹介)





## 1. MCSとは

厚生労働省等のガイドラインに準拠して  
ご利用いただけるサービスで  
患者・利用者の情報も扱える  
セキュリティです。



# 1. MCSとは (3省2ガイドライン)

## ■ MCSは3省2ガイドラインに準拠してご利用いただけます

- **厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」**  
**医療・介護従事者の皆様が対象：MCS運用管理規程**

### 【例】

- 1人1アカウント実名での登録
- 利用終了時、離席時はログアウト
- スクリーンショットなどでグループのメンバー以外に共有しない、他言しない など

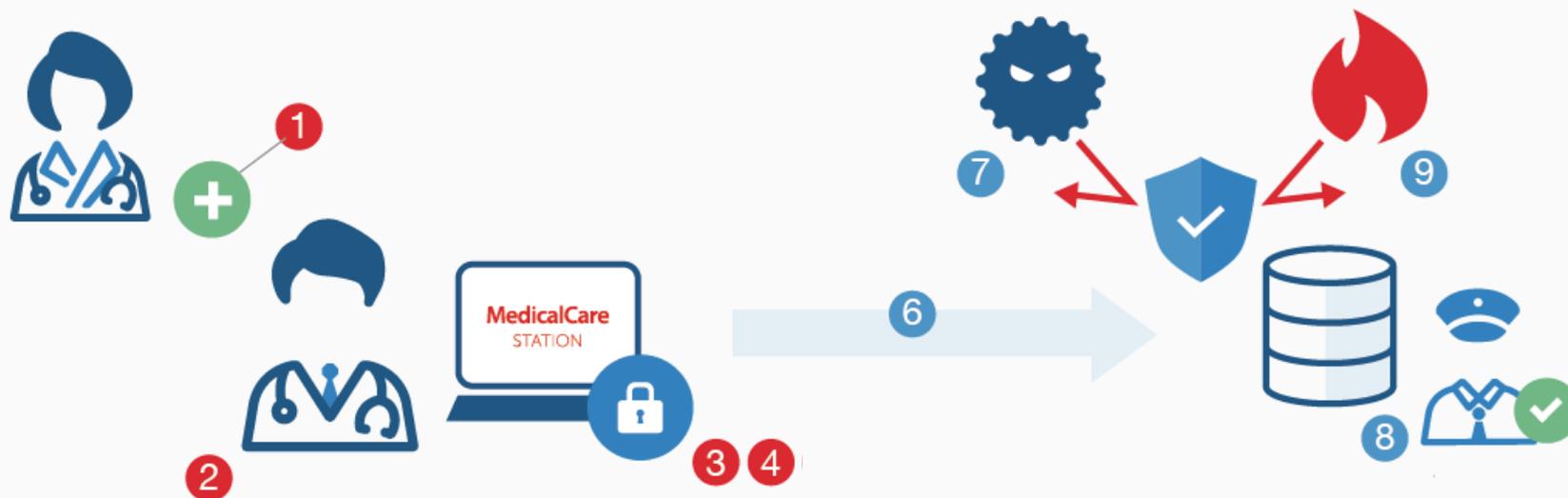
- **経産省・総務省「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」**

EMBの取り組み：エンブレースの安全管理に関する情報提供

### 【MCSの機能】

- 非公開型
- 招待・承認フローによるアクセスコントロール
- 患者や利用者の情報は、登録したメンバー間のみ共有

# 1. MCSとは (MCSのセキュリティ)



## アプリケーション

- ① 招待制 (アクセスコントロール)
- ② アカウントロック
- ③ 自動ログアウト
- ④ アプリ認証 (二要素認証)
- ⑤ ログイン通知・履歴確認 (New)

## インフラ

- ⑥ 通信の暗号化
- ⑦ 不正アクセス対策
- ⑧ データ管理・保全
- ⑨ 障害・災害対策

## コンプライアンス

厚生労働省

「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠

# 1. MCSとは



## 【患者・利用者】

患者・利用者ごとのグループ  
(患者とその家族も参加可能)  
患者・利用者のやり取り  
(個別にメンバー設定可能)

## 【グループ・コミュニティ】

医療介護従事者だけの任意のグループ  
(全ユーザー公開 or 非公開)  
地域の掲示板、勉強会のやり取りなど

## 【つながり】

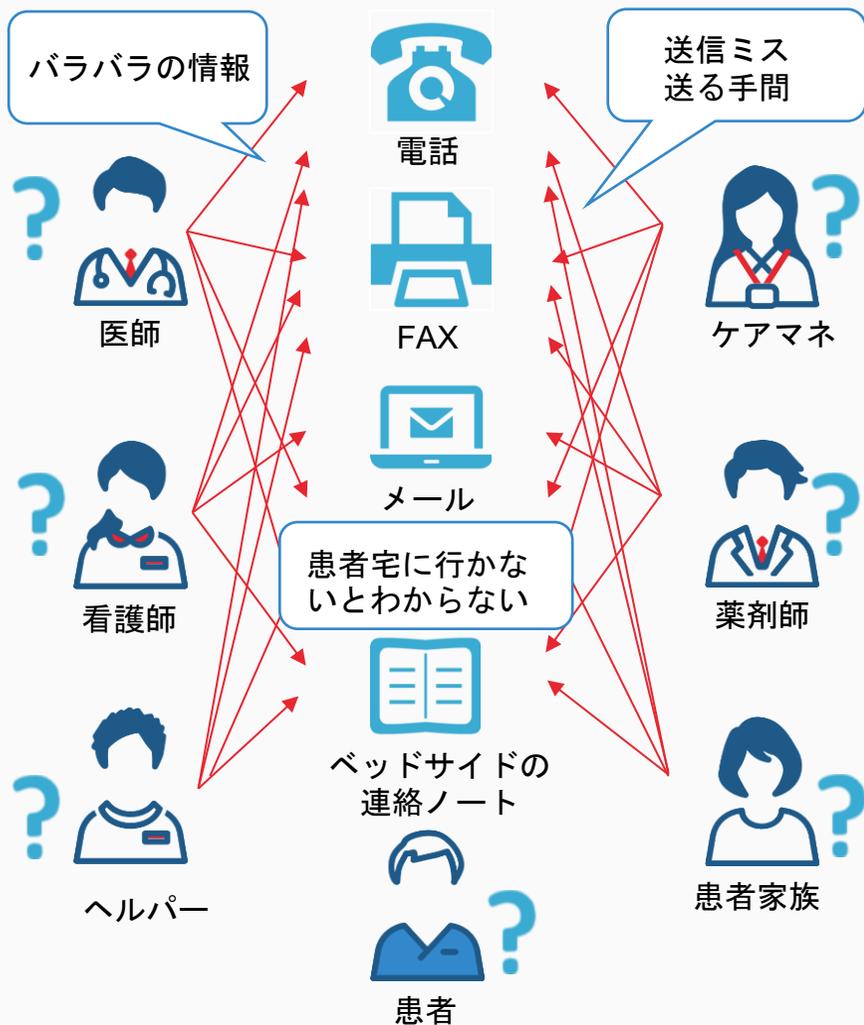
1対1のやり取り

## 【職場の情報共有】

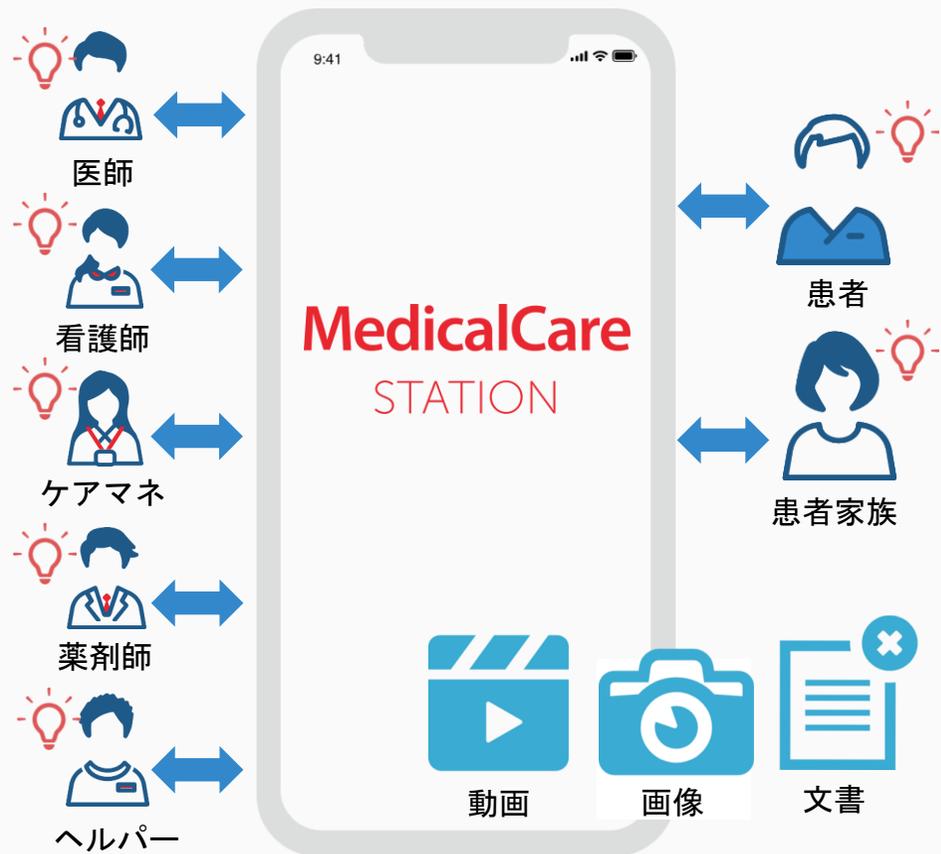
自分の事業所だけのグループ

# 1. MCSとは

## Before



## After



- 直感的で簡単な操作。
- 文章だけでなく、写真、ファイル、動画など様々なデータを共有できます。

# 1. MCSとは（ユーザーの声）

## 医師

- すぐに簡単に始められた
- 一日の電話着信履歴が55件から5件に減った
- (病状が安定していると書き込みは少ないから) 変化のある患者に集中して適切な連携が取れる

## 薬剤師

- 報告のタイミングが難しい重大な非緊急情報（特に医師への報告）が簡単にできるようになった
- 情報共有 = 同じ目標（ゴール）を共有できるようになった
- 看護師が訪問する前にレスキューをタイムリーに届けられた

## 患者・家族

- 先生やスタッフへの信頼が増した
- 訪問に来たスタッフがみな、私の状況をわかってくれている
- 今までは、いちいち同じ質問に答えなければならなかったが、それがなくなった

## ケアマネ

- ヘルパーが入る予定も簡単に共有できた

## ヘルパー

- ヘルパー間の情報共有ができた（例：スプーンの持ち方）

## 看護師

- 申し送りの時間や会議も短くて済むようになり、残業が減った
- 余裕ができることで患者とゆっくり向き合えるようになった

## 2. デモアカウントによる説明

- ・ 新規登録（ホームページ/招待経由）
- ・ ログイン（通知メール経由・ホームページ）
- ・ ホーム画面
- ・ 個人プロフィール（顔写真登録）
- ・ 患者利用者グループ、自由グループ紹介
- ・ グループ参加
- ・ グループ作成、投稿、リアクション、返信
- ・ グループ招待



### 3. MCSの使い方（推奨される使い方）

- 顔の見える関係の方との利用

MCSは、普段からやり取りがある方々との利用を推奨しています。

患者、利用者の機微な情報を扱えること、テキストだけのやりとりではコミュニケーションの齟齬が生まれる可能性があることから、日頃の信頼関係やコミュニケーションが重要と考えています。

- 「実名」「顔写真」の登録

MCSは、「実名での登録」と「自身の顔写真の登録」を推奨しています。

顔の見える関係の方々とやり取りをする上で、文字だけでなく、顔が見えることで安心感に繋がります。

また、グループを作る際の検索も簡単になります。



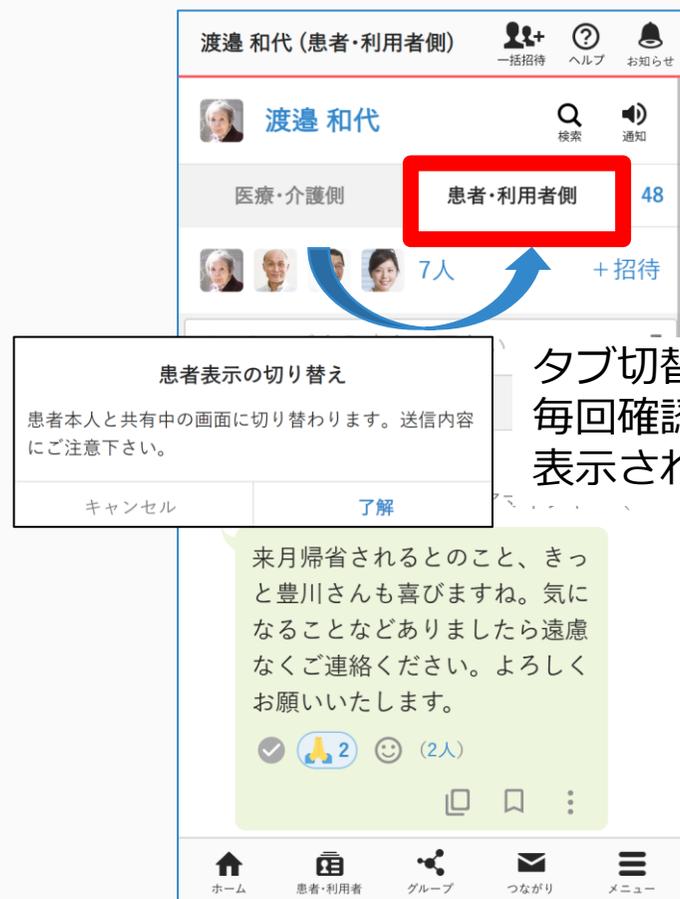
### 3. MCSの使い方（個人情報について）

- 患者、利用者からの同意取得

MCSは電話やFAX、メールと同様の連絡手段です。患者に関する情報を取り扱う場合、本人から他の連絡手段と同様の同意取得が必要です。

- 患者、利用者から見える範囲

患者、利用者が参加する場合、患者・利用者側タブでのやり取りしか見えません。医療・介護側タブでのやり取りが見えることはありません。患者・利用者側タブの切替の際には、必ず確認画面が表示されます。



タブ切替の際に  
毎回確認画面が  
表示されます

患者、利用者は患者・利用者側  
タブ内でのやり取りしか  
見えません

## 4. MCSを活用した事例

全国の医療介護現場での活用事例を公開しています



“つるカフェ”発、防災から広げる多職種ネットワーク（栃木・下野市）

医師会・行政が繋がる



災害時に役立つ400名超の多職種ネットワーク『虹ねっとcom』（大阪・豊中市）

医師会・行政が繋がる



“視覚型”情報共有で院内外の多職種連携をスムーズに（千葉・亀田総合病院）

病院と診療所が繋がる



ICTで患者と繋がり、QOLを支える多職種連携（福岡県・北九州市）

患者・家族と繋がる



病院と診療所が繋がる



在宅医療のチームが繋がる



患者・家族と繋がる



医師会・行政が繋がる

**MedicalCare** POST こちらよりご覧いただけます

<https://post.medicalcare-station.com/>

## 導入検討から活用までの事例（アーチクリニック） 2025.5

これまで連携先との連絡手段は電話とFAXだったが、タイミングが合わなかったり、FAXでは文字起こしが必要になる手間がかかっていた。2023年度に実施した顧客満足度調査で、連携先がオンラインでより円滑なコミュニケーションが取れる仕組みの導入が求められている事が分かり、MCSの導入に至った。



“連携しやすさ”をかたちに。アーチクリニックが築く地域医療の輪

アーチクリニック.	
エリア	神奈川県 横浜市神奈川区
ポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・連携先にアンケートをとり課題の解決策としてMCSを導入</li><li>・連携先に対して足を運んでMCSの説明を実施</li><li>・相手のタイミングを気にせず気軽に投稿が可能</li><li>・写真や非緊急の共有が可能となり円滑な連携に繋がる</li></ul>

## □ 活用例：看護師が訪問した際の患者の状態をMCSで共有。



ホーム

ホーム

一括招待 メニュー

【 #Dr】

4/1 17:37

看護師 ( )

いつも大変お世話になっております。  
最近のご様子についてご報告です。  
呼吸苦は一時より和らいでいるようで、オプソ0~1包/週の頻度で使用されております。腰痛は変わらずあり、ロキソプロフェンは毎日服用されています。  
昨日の定期訪問の際に、最近また左胸部の痛みが出るお話がありました。疼痛時はロキソプロフェン、効果乏しいようであればオプソ使用していただくようお願いしました。また、左第1趾の先端に軽度発赤・硬結・圧痛みられています。次回往診時に診察していただけますと幸いです。よろしく願いいたします。



1 1 (2人)

返信3件 最終更新(今日15:03)

ひょう疽かなと思いましたが 硬結もあり、元々胼胝があるのかなとも思い…

診察ありがとうございました。承知いたしました。悪化などあれば…

4月3日の診療レポートを送付いたします。

「写真で皮膚の状態を伝えることができるようになったことや相手のタイミングを気にしながら連絡しなくて済むこと、あとは事務所に戻らなくても情報を確認できるという声をいただき、業務負担やストレスが軽減されたと思います」

※取材当時の仕様のため、現在の仕様と異なる部分がございます

## □ 活用例：自由グループでクリニックと連携先の事務連絡グループを作成



今まで電話やFAXで連絡していた訪問看護指示書の添付や同意状況の確認をMCSで行っている。

「MCSの利用に関するアンケートを実施した結果、利便性が高まったとの声が多く、MCSで連携出来て楽になりましたと直接声をいただき、導入して良かったなと感じています」

※取材当時の仕様のため、現在の仕様と異なる部分がございます **26**



## □ MCSの導入を検討している施設に向けてメッセージ

「ICTツールを使うことに不安を持たれる方はいらっしゃると思います。でも、実際に使ってみると操作は簡単で、電話やFAXでのやりとりに比べると断然便利で連絡のストレスが少なくなります。つながっているメンバーのお名前はもちろんアイコンの登録をされている方もいるので、今以上に距離が近くなった気がします。ただ、MCSを導入するだけでは本質的な課題解決には至らないと思いますので、まずは連携先との関係を築くこと、あとはMCSを使う目的を明確にすることがポイントだと思います。」（院長）

「MCSはシンプルなUIですので、導入のハードルはかなり低いと思います。セキュリティに関しても、エンブレース社のホームページに、MCS運用管理規定や、同意書、セキュリティ関係のチェックリストが用意されているので、それを参考にルールを作る事も出来ますし、そういった意味でも導入はしやすいかと思います。まずはMCSを使う目的を明確にして、そのために必要なことをとにかくやってみることが大事かなと思います。最初からすべてうまくいく必要はないので、まずは無料版でチャレンジしてみてもは如何でしょうか。」（事務長）

## 災害時のMCS活用事例（大阪府 豊中市医師会） 2018.11

2006年、「在宅医療・ケア推進連絡会議」を開催。2007年には市内7カ所で「医療と介護の実務者連携会議」を開催するなど早くから多職種連携の取り組みが始まっていた。



[災害時に役立った400名超の多職種ネットワーク『虹ねっとcom』](#)

2009年：“虹ねっと”発足

『市民が住み慣れた場所で安心して最期まで暮らせる環境をつくること』を理念

2011年：『虹ねっと連絡会』開設

患者の入退院支援や多職種連携スキルアップ等必要なテーマごとにワーキンググループ（W.G）を立ち上げ、ICTツールも検討することとなる。

電話やファクスと同じ感覚で、気軽に使えるコミュニケーションツールが私たちには向いているだろうということで、最終的にMCSを選定。

『虹ねっとcom』というグループで地域の情報共有として活用。

# 災害時のMCS活用事例 (大阪府 豊中市医師会) 2018.11



2018年6月18日に最大震度 6 弱の地震発生

豊中市の多職種が参加する『虹ねっとcom』で呼びかけ

- テレビの情報では自分のエリアの状況がわからない
- 自分たちのエリアや患者さんの状況を知りたい

災害時に『虹ねっとcom』(MCS)で  
確認できたこと

- 箕面市の電柱が倒れて通行できない道路がある (台風)
- エレベーターが止まっている建物がある (地震・台風)
- 電動シャッターのパーキングから車が出せない (台風)
- 小さいエリアごとの停電状況や復旧状況 (地震・台風)

普段からの情報共有や顔の見える関係作りが  
災害時に役に立ちます！

※取材当時の仕様のため、現在の仕様と異なる部分がございます

## 行政が参加した活用事例（山梨県 上野原市） 2018.09

上野原市は2016年に医療介護連携ツールとしてMCSを採用し、行政を含めた医療介護に関わるほぼすべての職種が参加。上野原市の地域包括事業支援センターがMCSに実際にログインして患者タイムラインに参加するなど、積極的にMCSへ関与。



「独居で生活保護を受けている患者さんで、行動異常の症状が見られ、日頃から近所とのトラブルが絶えない。たとえ医療介護支援が軌道に乗ったとしても、地域の対応力が上がらなければ、いずれ壁にぶつかるという予感がありました。

一人の患者さんを支えるためには、地域の住民啓発を行い、地域の体力やスキルを上げていくことが大切なのです」

[行政スタッフも参加した多職種連携で認知症の患者を支える（山梨・上野原市）](#)

# 行政が参加した活用事例（山梨県 上野原市） 2018.09



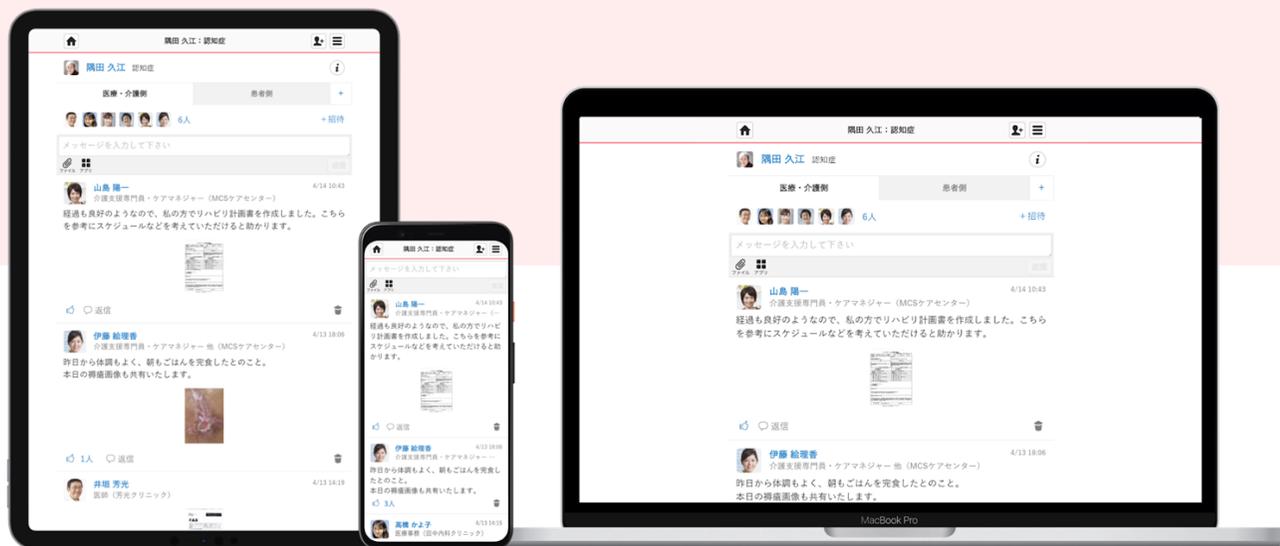
行政がグループに入ることによるメリット

「例えば、患者さんの財布の管理は社会福祉協議会の担当スタッフがしているのですが、患者と医療介護スタッフとの間で、『財布がなくなった』などの妄想によるトラブルが発生しても、協議会スタッフが患者宅を訪問してフォローし、解決してくれるようになった。」

※取材当時の仕様のため、現在の仕様と異なる部分がございます

## 4. MCSを活用した事例

本日ご参加いただいている皆様の中で、MCSの活用例や感想をお聞かせください。





## 5. MCS よくあるご質問

Q：新規登録に必要なものは？

A：1人につき1つ使用可能なメールアドレスをご準備ください

※メールアドレスの準備ができない場合は、アドレス以外でアカウント作成が可能です

Q：グループに参加したい

A：グループに参加中のメンバーから招待を受けてご参加ください

Q：メッセージが届いたら、お知らせはありますか？

A：ご登録のメールアドレスにメッセージの通知を受け取れます

※アプリをご利用の場合、プッシュ通知を受け取れます

## 5. MCS よくあるご質問

たくさんのグループに参加している場合の対処法  
(ラベル機能)





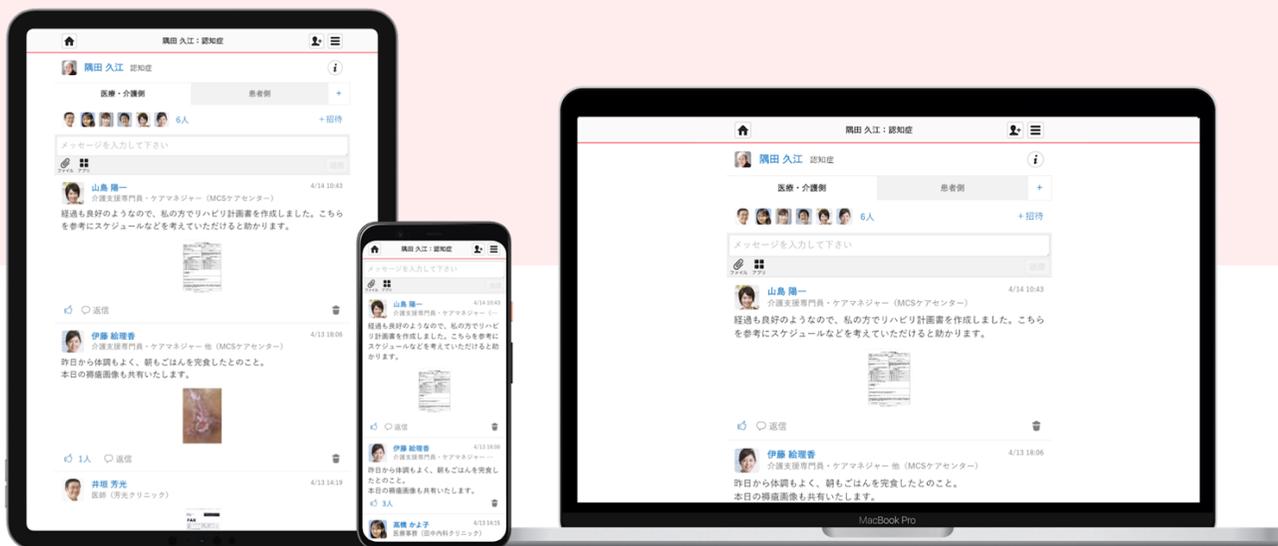
## ラベル機能（2025年9月リリース）

- 患者・利用者グループや自由グループに、自分だけの「**マイラベル(付箋メモのようなもの)**」を配置できます。
- ラベルの例
  - 進捗のラベル（入院調整中、プラン作成中、アセスメント中）
  - 共有のラベル（特記事項あり、ヒヤリハット報告）
  - 分類のラベル（高齢者施設A, 診療所B）
  - 緊急度のラベル（緊急度高、転倒注意） など

**参加しているグループをご自身で整理することができます！**

## 5. MCS よくあるご質問

# MCSで加算がとれる診療報酬



## 在宅医療におけるICTを用いた連携の推進

- ▶ 在宅で療養を行っている患者等に対し、ICTを用いた連携体制の構築を通じて、質の高い在宅医療の提供を推進する観点から、医療・ケアに関わる関係職種がICTを利用して診療情報を共有・活用して実施した計画的な医学管理を行った場合の評価、患者の急変時等に、ICTを用いて関係職種間で共有されている人生の最終段階における医療・ケアに関する情報を踏まえ、療養上必要な指導を行った場合の評価等を実施。



## 令和6年度新設：「在宅医療情報連携加算」

「在宅医療情報連携加算」とは、医療機関がICT（情報通信技術）を活用し、在宅療養中の患者の診療情報を他の医療機関と共有し、医師が計画的な医学管理を行う場合、100点を算定できます。実際に、MCSをご利用の医療機関で在宅医療情報連携加算が算定された実績がございます。

**「在宅医療情報連携加算」に関する施設基準や算定要件や「在宅医療におけるICTを用いた連携の推進」について、弊社が運営するMCSコミュニティにご参加いただくことで確認することができます。**



## 6. 運営会社概要



**会社名** エンブレース株式会社

**設立** 2001年

**代表** 代表取締役社長 荒木 真哉

**資本金** 50百万円

**株主** 株式会社スズケン

**事業内容** ソーシャル医療プラットフォーム事業

### VISION

世界中の医療・介護領域の課題を可視化し、  
コミュニケーションの力で解決する

### MISSION

コミュニケーションの力を用いて、医療・  
介護従事者が自分だけでは出来ないコトを  
解決し続ける





## 7. サポート窓口

# MedicalCare STATION

エンブレース株式会社 MCSサポートデスク

問合せフォーム <https://about.medical-care.net/html/contact/>

ご不明な点がありましたらお問い合わせください。

【営業時間：土日祝日除く平日9:00-18:00】



## 8. 質疑応答

研修会の内容や、MCSに関する質問などあれば  
お声かけください。



非公開型 医療介護専用SNS

メディカルケアステーション (MCS)  
で実現する多職種ネットワーク

ご清聴  
ありがとうございました。

